

たものである。其のうちにカーブールの町は回教徒に征服されて現在の地に移されたものらしく、次で、十二世紀の中頃になつてガズニの町の凋落すると同時に、カーブールが其の地方の政治經濟の中心にならうと云ふ所まで進んだものと思はれるが、十四世紀には愈々其の中心になり切つてゐたのである。さういふ譯でティムール・ラン Timour-Lang はカーピシーの立退き跡に移住者を送りはしたが、其の地の名などは最早知らなかつた有様で、アレキサンダー大王とは反對に、カーブールを以て印度遠征の作戰基地としたものである。

余はこゝに此の話を書ける必要もなく、又十二三種の言語の話されてゐた國境にある此のバベル Babel が、十六世紀の初めから、どうしてヒンズスタン Hindoustan 西北邊境の守護者たる地位に立つたか、曾てナーディル・シャー Nâdir Shâh の學校で領土を取り集めて國を建てる術を學んだアメド・カーン・ジュラーニ Ahmed Khân Durrâni が、ペルシアのセフェヴィス Sefevîs 印度の大蒙古 Grands Mogols 兩王朝の時を同じうする衰微に乗じて、どうして見事に獨立を